



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月10日

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守谷 隆志  
 問合せ先責任者 (役職名)IR担当執行役員 (氏名)関本 秀貴 (TEL)03(5786)3900  
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	418	△16.9	△21	—	△23	—	△13	—
23年3月期第1四半期	504	△24.1	△97	—	△94	—	△75	—

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 △32百万円(—%) 23年3月期第1四半期 △92百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△0 63	— —
23年3月期第1四半期	△3 50	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	1,084	70	6.2
23年3月期	1,051	131	9.1

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 67百万円 23年3月期 95百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
24年3月期	— —				
24年3月期(予想)		0 00	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	908	△29.4	△38	—	△33	—	△33	—	△1 54
通期	1,650	△22.1	△84	—	△73	—	△74	—	△3 44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社 (株式会社ISRサービスセンター)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期1Q	21,496,537株	23年3月期	21,496,537株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

24年3月期1Q	16,004株	23年3月期	16,004株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

24年3月期1Q	21,480,533株	23年3月期1Q	21,480,533株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行いました<sup>が</sup>、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- ・当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期 (及び当期) 純利益金額を算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) 重要な後発事象	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、本年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災を機に大きな環境変化に直面し、その後の福島原発事故などによる企業の生産や輸出が大きく打撃を受け、個人消費が低迷しております。また、欧州の一部の国々における財政・金融不安を背景とした円高による企業の不安感などにより、経済全体の先行きが一層不透明な状態となっております。

このような状況下、当社のレジャー事業におきましては、大震災発生直後に集客数及び売上高が急落したものの、大震災による施設の被害がなかったことや地理的要因から、集客数及び売上高とも徐々に回復してきており、5月、6月は前年対比で90%強の売上を維持しているなど大震災の影響は限定的となっております。映像・音盤関連事業におきましては、収益面の強化を図るため、さらなる事業の集中と選択を行い、連結子会社でありました株式会社ISRサービスセンター及び持分法適用関連会社でありましたホスピタルパートナーズ株式会社(旧社名：エムスリエンタテインメント株式会社)の株式譲渡により、連結子会社及び持分法適用会社に該当しなくなりました。連結子会社である株式会社FLACOCOは、引き続き安定した収益を計上しております。投資事業においては、昨年引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。

以上の結果、当第1四半期は、売上高4億18百万円(前年同四半期に比べ16.9%減)、営業損失21百万円(前年同四半期は営業損失97百万円)、経常損失23百万円(前年同四半期は経常損失94百万円)、四半期純損失13百万円(前年同四半期は四半期純損失75百万円)となりました。

当第1四半期の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

#### (レジャー事業)

当第1四半期におけるレジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆シャボテン公園では「ハンビロコウ“ビルくん”来園30周年記念イベント」、伊豆ぐらんぱる公園では「120匹の鯉のぼり」、伊豆四季の花公園では「第5回原種日本一城ヶ崎あじさいまつり」を開催し、大変ご好評をいただきました。

また、新たにマーケティング部を創設して、イベント誘致や東京でのメディア対応を専属で行う部署を作り、営業活動及びPR活動に注力しております。

売上高の減少につきましては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって4月の入園者が対前年比で減少したことやその後の自粛ムードが要因であります。また、景気の悪化による客単価の減少により、営業利益は減少しております。ただし、東日本震災直後の混乱によるものですので、限定的であります。

この結果、レジャー事業においては、売上高4億6百万円、営業損失37百万円となりました。

(映像・音盤関連事業)

当第1四半期における映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOによるCM制作による売上や当社グループが保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。当第1四半期における映像・音盤関連事業における営業損失は、当社の子会社でありました株式会社ISRサービスセンター及び持分法適用会社であったホスピタルパートナーズ株式会社(旧社名：エムスリイエンタテインメント株式会社)の影響が多くなっております。株式会社ISRサービスセンターについては、平成23年5月25日付で当社保有株式を譲渡し、当社の連結子会社に該当しなくなっております。また、ホスピタルパートナーズ株式会社(旧社名：エムスリイエンタテインメント株式会社)の当社保有株式を平成23年6月30日付で売却したことにより、当社の持分法適用関連会社に該当しなくなりました。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高12百万円、営業損失13百万円となりました。

(投資事業)

当第1四半期における投資事業につきましては、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業においては、売上高はありませんでした。

(その他)

当第1四半期におけるその他の事業につきましては、売上高はありませんでした。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて46百万円増加し、2億49百万円となりました。これは主として、現金及び預金が23百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて13百万円減少し、8億34百万円となりました。これは主として、破産更生債権等が2億21百万円減少したこと等によります。

この結果として、資産合計は前連結会計年度末に比べて32百万円増加し、10億84百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億1百万円増加し、7億94百万円となりました。これは主として、短期借入金が増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて7百万円減少し、2億20百万円となりました。これは主として事業構造改善引当金が増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて93百万円増加し、10億14百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、70百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の9.1%から6.2%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月13日に発表しました平成24年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきまして、現時点での変更はありません。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

株式会社ISRサービスセンターは、平成23年5月25日に当社が保有する株式のすべてを譲渡したため、当第1四半期連結会計期間末をもって連結の範囲から除外しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

#### 1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### 2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

#### 1 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

この適用により、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

なお、これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前第1四半期連結累計期間の1株当たり四半期純損失は、以下のとおりであります。なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純損失金額については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり四半期純損失金額 △0円35銭

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成22年3月期に引続きまして、平成23年3月期におきましても営業損失196,877千円、当期純損失250,640千円を計上しており、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。また、当第1四半期連結会計期間においても営業損失21,566千円、経常損失23,318千円、四半期純損失13,443千円を計上しております。

平成24年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様が長時間滞在していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食“、“音楽“、“動物“、“スポーツ“などをテーマにした話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充を図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しなどにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	98,206	121,670
売掛金	20,343	32,142
未収入金	13,130	13,373
商品等	19,585	18,743
短期貸付金	10,000	21,870
その他	47,247	47,411
貸倒引当金	△5,829	△5,829
流動資産合計	202,683	249,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	396,449	396,253
土地	270,252	270,252
その他(純額)	73,842	78,983
有形固定資産合計	740,543	745,489
無形固定資産		
のれん	857	673
無形固定資産合計	857	673
投資その他の資産		
投資有価証券	95,969	76,989
長期貸付金	35,700	25,700
長期化営業債権	90,305	89,792
破産更生債権等	223,936	2,633
その他	11,480	11,785
貸倒引当金	△349,941	△118,126
投資その他の資産合計	107,449	88,775
固定資産合計	848,850	834,937
資産合計	1,051,533	1,084,321



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	70,993	76,707
短期借入金	40,000	165,000
未払金	463,254	422,624
前受金	41,274	48,319
預り金	13,718	14,473
未払法人税等	5,820	5,686
賞与引当金	6,995	12,554
事業構造改善引当金	20,400	20,400
債務保証損失引当金	20,000	20,000
その他	9,960	8,237
流動負債合計	692,416	794,002
固定負債		
事業構造改善引当金	15,600	10,500
退職給付引当金	169,683	171,042
繰延税金負債	3,936	—
その他	38,800	38,600
固定負債合計	228,020	220,142
負債合計	920,437	1,014,144
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	596,275	268,591
資本剰余金	112,989	—
利益剰余金	△605,770	△178,540
自己株式	△13,467	△13,467
株主資本合計	90,027	76,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,738	△9,305
その他の包括利益累計額合計	5,738	△9,305
新株予約権	6,165	2,898
少数株主持分	29,166	—
純資産合計	131,096	70,176
負債純資産合計	1,051,533	1,084,321

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	504,406	418,922
売上原価	196,296	163,434
売上総利益	308,109	255,487
販売費及び一般管理費	405,478	277,054
営業損失(△)	△97,369	△21,566
営業外収益		
受取利息	981	139
その他	4,580	2,876
営業外収益合計	5,562	3,016
営業外費用		
支払利息	65	121
為替差損	839	4,646
持分法による投資損失	1,580	—
その他	9	0
営業外費用合計	2,494	4,768
経常損失(△)	△94,301	△23,318
特別利益		
新株予約権戻入益	19,614	3,267
関係会社株式売却益	—	2,850
その他	18	—
特別利益合計	19,632	6,117
税金等調整前四半期純損失(△)	△74,668	△17,201
法人税、住民税及び事業税	420	351
法人税等合計	420	351
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△75,088	△17,552
少数株主損失(△)	—	△4,109
四半期純損失(△)	△75,088	△13,443

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△75,088	△17,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,410	△15,043
その他の包括利益合計	△17,410	△15,043
四半期包括利益	△92,498	△32,596
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92,498	△28,487
少数株主に係る四半期包括利益	—	△4,109

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結会計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）

当社グループは、平成22年3月期に引続きまして、平成23年3月期におきましても営業損失196,877千円、当期純損失250,640千円を計上しており、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。また、当第1四半期連結会計期間においても営業損失21,566千円、経常損失23,318千円、四半期純損失13,443千円を計上しており、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

平成24年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様が長時間滞在していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食“、“音楽“、“動物“、“スポーツ“などをテーマにした話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充を図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しなどにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものであると考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	477,772	26,633	—	504,406	—	504,406	—	504,406
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	—	—	28,571	28,571	8,571	37,142	△37,142	—
計	477,772	26,633	28,571	532,978	8,571	541,549	△37,142	504,406
セグメント利益 (△損失)	△62,136	△10,148	△24,190	△96,474	△2,394	△98,869	1,500	△97,369

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益の調整額1,500千円は、セグメント間取引消去であります。  
 3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	406,603	12,318	—	418,922	—	418,922	—	418,922
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	—	300	28,571	28,871	8,571	37,442	△37,442	—
計	406,603	12,618	28,571	447,793	8,571	456,365	△37,442	418,922
セグメント利益 (△損失)	△37,620	△13,577	21,366	△29,831	6,765	△23,066	1,500	△21,566

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益の調整額1,500千円は、セグメント間取引消去であります。  
 3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	596,275	112,989	△605,770	△13,467	90,027
当第1四半期連結会計期間末までの変動額					
資本金の取崩	△327,683	327,683	—	—	—
その他資本剰余金からその他利益剰余金への振替	—	△440,673	440,673	—	—
四半期純損失	—	—	△13,443	—	△13,443
当第1四半期連結会計期間末までの変動額合計	△327,683	△112,989	427,229	—	△13,443
当第1四半期連結会計期間末残高	268,591	—	△178,540	△13,467	76,583

(6) 重要な後発事象

重要な訴訟等

当社及び連結子会社である株式会社サボテンパークアンドリゾートは、株式会社ICPより不動産売買契約を原因として、未払金75,581千円及び遅延損害金の支払いを求めた訴訟を提起されました。

当社の方針と致しましては、当該契約の当事者ではないため、弁護士と相談の上で適切な対応方法において、当社の正当性を主張し対処してまいります。なお、平成23年6月6日に、当社は株式会社ICPと当該契約をしていない旨を既に同社に通知しております。

株式会社サボテンパークアンドリゾートの方針と致しましては、当該契約において株式会社ICPが契約不履行であるため、弁護士と相談の上で適切な対応方法において、株式会社サボテンパークアンドリゾートの正当性を主張し対処してまいります。

1. 訴訟の提起があった裁判所及び年月日

(1) 訴訟が提起された裁判所 東京地方裁判所

(2) 訴状が到着した年月日 平成23年7月2日

2. 訴訟を提起した者

(1) 会社名 株式会社ICP

(2) 代表者 代表取締役 趙 裕燦

(3) 本店所在地 東京都港区白金一丁目25番11号